

2023 年度事業報告書

(2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)

事業概要

2023 年度は、公益社団法人日本地震学会の主要な事業である研究発表会の開催、学会誌の刊行および EPS 運営の支援、学会情報誌の刊行およびメールニュースの発行、広報紙の刊行、学会賞の表彰、国内外の関連学協会との連携等の活動を継続実施し、地震に関する学術の振興と社会への普及を図った。特に、関東大震災からちょうど 100 年であることを踏まえ、オンラインツールも活用しつつ、積極的に各種の事業を実施した。

秋季大会においては、「情報科学との融合による地震研究の加速」「能登半島北東部の群発地震と M6.5 の地震」「大正関東地震から 100 年：関東地方における地震研究の展開」と題した 3 つの特別セッションを開催した。また、「関東大震災から 100 年 一過去を学び、将来に備える」と題した一般公開セミナーを開催した。

地震学の知見の普及と人材育成のために、2 回の特別シンポジウム（うち 1 回は第 16 回日本地震工学シンポジウム・オーガナイズドセッション）、徳島県で住民向けセミナー、強震動講習会、教員サマースクール、地震の教室、地震火山地質こどもサマースクール、地震学夏の学校、ジオパーク専門員らへの地震学勉強会、国立科学博物館でのフォーラムを開催したとともに、防災推進国民大会 2023 や東京国際消防防災展 2023 に参加・協力した。また、令和 6 年能登半島地震の発生を受けて会長声明を発出したとともに、会員が行う研究活動を推進するための情報交換の場としてオンライン談話会を 4 回開催した。

外部団体との連携として、防災学術連携体の活動へ参画した。地学オリンピック日本委員会への支援、各関連学術団体の会合に参加するなど、情報収集や連携強化を進めた。各種団体が主催する賞に会員を推薦した。

I. 事業

1. 研究発表会・講演会等の開催

1. 1 日本地球惑星科学連合 2023 年大会

日本地球惑星科学連合及び関連する他学会と共同で日本地球惑星科学連合 2023 年大会を開催した。地震学関係のレギュラーセッション（地震発生の物理・断層のレオロジー、地震活動とその物理、地殻構造、地震観測・処理システム、地震予知・予測、強震動・地震災害、地殻変動、津波とその予測、活断層と古地震）については、大会・企画委員会がコンビーナを務め、プログラム編成を行った。

期 日：2023 年 5 月 21 日（日）～5 月 26 日（金）

場 所：幕張メッセ及びオンラインのハイブリッド

1. 2 日本地震学会 2023 年度秋季大会

日本地震学会 2023 年度秋季大会を下記の通り開催した。参加者は 774 名（会員 612 名、非会員等 162 名）であった。講演数は、口頭 225 件、ポスター 164 件の合計 389 件であった。そのほかに、2022 年度学会賞授賞式、および若手学術奨励賞受賞者 3 名による受賞記念講演を大会初日に行った。受賞記念講演を含む 19 の一般セッションに加え、「情報科学との融合による地震研究の加速」「能登半島北東部の群発地震と M6.5 の地震」「大正関東地震から 100 年：関東地方における地震研究の展開」と題した 3 つの特別セッションを開催した。学生による優れた研究発表の奨励、研究発表技術の向上を目的とした学生優秀発表賞の審査を行い、9 名が受賞した。

期 日：2023 年 10 月 31 日（火）～11 月 2 日（木）

場 所：パシフィコ横浜アネックスホール（横浜市）

1. 3 一般公開セミナー「関東大震災から 100 年 –過去を学び、将来に工備える」

地震学の研究成果を一般社会に還元し、地震に関する知識を広く普及することを目的に、本年は日本地震工学会との共催で会員以外を対象とした普及啓発活動として開催した。3 名の講師による講演および 3 名のパネリストによるパネルディスカッションを行い、セミナーに 121 名の参加者があった。

期 日：2023 年 11 月 3 日（金・祝）13:00 – 16:00

場 所：はまぎんホール ヴィアマレー

1. 4 特別シンポジウム

地震学の現状（等身大の地震学）を社会に伝えるとともに、社会からの地震学への要請を受け止めて学会の今後の活動にも役立てる活動として下記の特別シンポジウムを開催した。

特別シンポジウム 「地震学」は自治体や消防の現場にどう使えるかー南海トラフや首都直下の対策現場から問う研究最前線ー

期 日：2023 年 6 月 16 日（金）10:00 – 12:00

場 所：東京ビックサイト 会議棟 6 階（オンライン配信も併用）

講師と内容：

平田 直（東京大学名誉教授）：地震発生はなぜ確率で表すのか？ 確率をどう理解するのか？

小平 秀一（海洋研究開発機構）：どうする？ 南海トラフ地震

坂東 淳（徳島県）：自治体の悩みと地震学者への質問

木全 誠一（名古屋大学災害対策室）：消防現場の悩みと地震学者への質問

パネルディスカッション：山岡 耕春（名古屋大学）、パネラー：平田・小平・坂東・木全

1. 5 「強震動予測 –その基礎と応用」講習会

地震動評価に携わる技術者・実務者を対象に、強震動予測の新しい研究成果を普及する目的で以下の講習会を行った。2023 年度は、下記の内容で講習を企画した。参加は 72 名（現地参加 26 名、オンライン参加 46 名）であった。講習会の内容についてニュースレターで報告を行った。

期 日：2023 年 11 月 28 日（火）10:00-16:00

場 所：東京大学地震研究所 1 号館 2 階セミナー室 AB 及びオンラインでのハイブリッド開催

講師と内容：

三宅 弘恵（東京大学）	「震源断層モデルの設定法」
田中 信也（東電設計）	「波数積分法を用いた地震動の計算法」
芝 良昭（電力中央研究所）	「経験的・統計的グリーン関数法を用いた地震動の計算法」
大堀 道広（滋賀県立大学）	「浅部地盤による非線形応答の評価法」

1. 6 教員サマースクール

地震の研究者と小・中・高等学校教員との連携と、地震教育の現状に即した知識普及活動の実現を目指して、教員サマースクール2023「伊豆衝突帯－丹那断層や地震観測点を巡る－」を2023年8月20日（日）・21日（月）の2日間開催した。

丹那断層公園と火雷神社で地表断層の変位を観察し、箱根関所で断層地形と関所の関係を学び、神奈川県温泉地学研の観測や小学校に設置された東大地震研の強震観測点を見学した。足柄平野の自噴井戸、江戸時代に造られた曾比の霞堤、国府津－松田断層による地形から秦野市葛葉緑地の火山灰露頭、秦野断層の考察などを行っている。地震や火山噴火、水害の影響を受ける地での暮らしと自然の恵み、防災・減災について深く考えることができた2日間であった。

一般参加者18名、講師2名、学校教育委員会委員8名の合計28名で、チャーターした中型バス一杯となる盛況となった。

1. 7 地震の教室

会員以外を対象とした地震に関する知識を広く普及することを目的とし、2023年11月3日（金・祝）にはまぎん こども宇宙科学館を会場に地震の教室（親子向け／一般・教員向け）を開催した。横浜市と共催し、親子向け教室の開催にあたっては関西地震観測研究協議会広報分科会の協力を得て実施した。

親子向け教室では「地震計を作って、ゆれを測ってみよう！」として、身の回りに普通にある物を使った小学生でもできる工作技術にて、簡単な地震計を作ってもらい、揺れの大きさ競争などを通して地震防災・減災についても解説した。事前申し込み制で午前、午後の2回開催した。

午前の部は、未就学児3名、小学生13名、中学生1名、高校生2名、保護者18名の参加、定員に空きがあった午後の部は、当日受付も可能として、親子参加12組（未就学児連れ4組、小学生連れ7組、中学生連れ1組）、大人のみ参加1名であった。

一般・教員向け教室では、「ご家庭で、小・中・高の授業で、すぐに使える地震を教える教材紹介」として、地震を教える教材紹介ご家庭で、小中高の授業に向けて学校で、すぐに作れる・使える、地震を考える・教える手作り教材を紹介した。参加者は親子向け教室の参加者を除いて合計120名程度であった。事前に知って参加した人のほか、こども宇宙科学館への来場者で立ち寄った親子連れが多かった。

1. 8 地震火山地質こどもサマースクール in 平塚

第22回地震火山地質こどもサマースクールは、平塚を舞台に、地域のこども達のみならず全国から火山・自然体験に興味のある児童生徒が集まり、「関東地震100年」をテーマとして、湘南の海の恵みと地震のひみつを2日間にフィールドワークや実験学習を通して自然現象を探究した。地層や地形、石の特徴から湘南の大地のナゾを解く鍵を探したり、相模湾の特徴を踏まえ、相模湾の

魚や漁業に振れ、グループごとに調べたことや考えたことをまとめ、発表を行った。2日目には、「地震火山地質こどもサマースクールフォーラム in 平塚」として一般市民も参加できる公開フォーラムを同時開催し、サマースクール参加のこどもたちによる調査結果の発表やおこなった。実施にあたっては、日本火山学会、日本地質学会、ひらつか防災まちづくりの会との実行委員会を結成した。

期 日：2022年8月17日（水）～8月18日（木）

参加者を対象に8月5日（土）にオンラインにて事前説明会を実施した。

場 所：照ヶ崎（大磯町）、湘南平（平塚市）、土屋公民館（平塚市）、土屋の露頭（平塚市）、旧相模川橋脚（茅ヶ崎市）、平塚漁港（平塚市）、平塚市博物館（平塚市）、平塚市中央公民館（平塚市）

参加者：37名（小学生15名、中学生18名、高校生4名）

1. 9 若手育成企画「地震学夏の学校 2023」

若手育成のため、「地震学夏の学校 2023」を現地にて対面で開催した（企画・実施：地震学夏の学校 2023 実行臨時委員会）。本年度は「地震学夏の学校 2023 ～地震研究の最前線、社会との関わり～」というテーマで開催され、学生、研究員 39 名の参加があった。6 名の講師による講義のほか、ポスター発表やグループワーク、防災科学技術研究所・国土地理院・産業技術総合研究所の見学が行われた。

期 日：2023年9月20日（水）～22日（金）

場 所：防災科学技術研究所（茨城県つくば市）

1. 10 社会活動

金森名誉会員からの寄付金をもとに設置した「社会活動基金」の活動として、例年、基金事業として出展している防災推進国民大会（ぼうさいこくたい）に参加し、小原会長によるショートプレゼンテーションのほか、活動のパネル展示を行った。

ぼうさいこくたい 2023 イグナイトステージ 学会長によるショートプレゼンテーション
「地震を研究しつつ、成果を社会やこどもたちとも共有しています」

期 日：2023年9月17日（日）15:20～15:35

場 所：横浜国立大学大学会館小講堂（横浜市保土ヶ谷区常盤台）

講 師：小原 一成（公益社団法人日本地震学会会長・東京大学地震研究所）

「社会活動基金」の活動として、徳島県海陽町からの申請に基づく地震住民セミナーを「地震学を社会に伝える連絡会議」と連携により以下のようなプログラムで実施した。

このセミナーは、2023年6月に東京国際消防防災展 2023 の同時期開催行事として、地震学を社会に伝える連絡会議が企画した特別シンポジウムのパネラーを務めた徳島県の坂東淳南部総合県民局長が、海陽町や地元研究者に働きかけ、同町や徳島大学とも共催で実現したものである。

セミナータイトル：最新科学で知る多様な南海トラフ巨大地震～助かる可能性をあきらめない～

期 日：令和5年12月24日（日）13:30～16:00

場 所：阿波海南文化村 文化館ホール（海陽町四方原杉谷 73）

主 催：海陽町，徳島県南部総合県民局，日本地震学会

共 催：徳島県立南部防災館，徳島大学環境防災研究センター

講師と内容：

三浦 茂貴（海陽町長）：開会挨拶

平田 直（東京大学名誉教授）：南海トラフ地震発生の時間的，空間的多様性

堀 高峰（海洋研究開発機構）：観測データとシミュレーションから探る南海トラフ地震の多様なシナリオ

パネルディスカッション：～分からないことを何でも聞いてみよう～

パネラー：平田・堀（既出），馬場 俊孝（徳島大学），芝野 雄一（徳島県）

1. 1 1 ジオパーク専門員らへの地震学習会

ユネスコ世界ジオパークのガイドラインに沿い，地震学の基礎知識の学習会を，日本各地のジオパーク専門員を対象に，オンラインにて実施した．参加者は約 50 名であった．

地震学習会「ジオパーク活動で使える地震学 7：日本海形成史から見た日本海側の地震について」

主 催：日本地震学会ジオパーク支援委員会

共 催：日本ジオパーク学術支援連合

期 日：2023 年 6 月 20 日（火）13：30－15：00

場 所：Zoom ウェビナーによるオンライン開催

講 師：佐藤 比呂志（東京大学地震研究所）

コメンテーター：松原 典孝（兵庫県立大学），大野 希一（鳥海山・飛鳥ジオパーク推進協議会）

1. 1 2 ジオパーク巡検の開催

横浜市で開催される秋季大会前の 10 月 30 日（月）にジオパーク巡検（協力：箱根ジオパーク）を実施した．参加者は 24 名であった．

協 力：箱根ジオパーク

期 日：2023 年 10 月 30 日（月）

場 所：小田原市周辺（箱根ジオパーク）

1. 1 3 第 16 回日本地震工学シンポジウム（16JEES）

日本地震工学会を幹事学会として，日本地震学会，日本建築学会，土木学会，地盤工学会，日本機械学会，地域安全学会，日本活断層学会，日本災害情報学会，日本災害復興学会，日本自然災害学会，日本都市計画学会の計 12 学会により共同主催した．その際、「地震学を社会に伝える連絡会議」によりオーガナイズドセッションを企画し、実施した．

期 日：2023 年 11 月 23 日（木・祝）～25 日（土）

場 所：パシフィコ横浜ノース（横浜市）

オーガナイズドセッション「海溝型巨大地震の予測情報をめぐる防災対策とリスクコミュニケーション-「わかりにくさ」に向き合う」

期 日：2023 年 11 月 15 日（土） 9:15 – 12:25

場 所：パシフィコ横浜ノース

講師と内容：

山岡 耕春（名古屋大学）：趣旨説明「どのように「わかりにくい」地震の予測情報を出すに至ったのか」

入江 さやか（松本大学）：「南海トラフ地震臨時情報 社会は「わかりにくさ」をどう受け止めるか」

大谷 竜（産業技術総合研究所）：招待講演「南海トラフ地震臨時情報：災害予測情報としての運用上の課題についての考察」

森谷 周（NHK）：招待講演「南海トラフ地震「半割れ」は社会に何をもたらすか ～ NHK ドラマ「南海トラフ巨大地震」の現場から～」

ほか、9 題の講演発表

総合討論：山岡 耕春・入江 さやか（司会：既出）

1. 1 4 東京国際消防防災展 2023 への特別協力

地震学を社会に伝える連絡会議・学校教育委員会・普及行事委員会を中心に、東京消防庁主催の東京国際消防防災展 2023 に特別協力を行った。

期 日：2023 年 6 月 15 日（木）～18 日（日）

内 容：講演に加え、展示や実験の演示、質問コーナーを設置した。特別シンポジウム（1. 4）を同時開催した。

1. 1 5 国立科学博物館でのフォーラム

2023 年 9 月 30 日、関東大震災 100 年企画展「震災からのあゆみ－未来へつなげる科学技術－」開催期間中に、「地震学会&第 22 回地震火山地質子どもサマースクールジョイントフォーラム in 国立科学博物館」を開催した。

1. 1 6 オンライン談話会

2024 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震に関して会員が行っている研究活動を推進するための情報交換を目的として、地震学を社会に伝える連絡会議の企画による談話会を 4 回開催した。

第 1 回

期 日：2024 年 2 月 2 日（金） 17:00～19:00

場 所：Zoom ウェビナー，YouTube ライブ配信

講師と内容：

平松 良浩（金沢大学）：令和 6 年能登半島地震の背景

西村 卓也（京都大学）：GNSS 観測による 2020-2024 年能登半島地震活動に伴う地殻変動

第 2 回

期 日：2024 年 2 月 8 日（木） 17:00～19:00

場 所：Zoom ウェビナー，YouTube ライブ配信

講師と内容：

石山 達也（東京大学）：令和6年能登半島地震（M7.6）に伴う能登半島北岸の変動地形調査
穴倉 正展（産業技術総合研究所）：能登半島北部沿岸の隆起痕跡（海成段丘・生物遺骸群集）
が示す地震履歴

第3回

期 日：2024年2月15日（木）17:00～19:00

場 所：Zoom ウェビナー，YouTube ライブ配信

講師と内容：

岡村 行信（産業技術総合研究所）：日本海の活断層－分布と特徴

川瀬 博（京都大学）：能登半島地震の震源域強震観測点のサイト特性と本震記録の構造物破壊能

第4回

期 日：2024年2月28日（水）17:00～19:00

場 所：Zoom ウェビナー，YouTube ライブ配信

講師と内容：

青井 真（防災科学技術研究所）：令和6年能登半島地震のMOWLASによる地震観測

今村 文彦（東北大学）：能登半島地震による津波のメカニズムと今後の対応

2. 学会誌その他の刊行物の発行

2. 1 学会誌「地震」

「地震（学術論文部）」は第76巻として25編（うち，特集：1923年大正関東地震9編）を電子版として発行した。J-STAGEでも電子版の公開を行った。記事の内容・件数及びページ数は下記の通りである。また冊子体を隔月，計6冊を発行した。隔月冊子体を600部印刷した。

種類	件数	ページ数
論説	11（特集3）	197
総合報告	2（特集2）	47
史料	-	-
資料	2	27
寄書	7（特集2）	44
技術報告	1	8
解説	2（特集2）	27
合計	25	350

「地震（ニュースレター部）」は第76巻NL1号からNL6号までを隔月で発行した。冊子体の

発行部数は、各 750 部であり、1 号あたりの平均ページ数は 39 であった。掲載した主な記事の内容と件数は下記の通りである。また、冊子体を希望する会員へ「地震（ニュースレター部）」の冊子体を各号送付した。

種 類	件数
記事	43
受賞	0
シンポジウム報告	11
会員の声	0
書評	1
人事公募	10
学会記事	19
シンポジウム案内	6
補助金・助成金等案内	5
合 計	95

2. 2 欧文学術誌「Earth, Planets and Space」

欧文学術誌「Earth, Planets and Space」を、オープンアクセスのオンラインジャーナルとして、地震学会を含む関連 5 学会の共同で発行した。第 75 巻の一部が 2023 年 4 月から同年 12 月に刊行され、第 76 巻の一部が 2024 年 1 月から同年 3 月に刊行された。種別ごとの件数は以下の通りである。

種類	件数
Correction	9
Express Letter	24
Frontier Letter	10
Full Paper	132
Preface	2
Technical Report	14
合計	191

2. 3 学会広報紙「なみふる」

広報紙「なみふる」の No.133 (2023 年 5 月) ~No.136 (2024 年 2 月) を各 8 頁、2,000 部発行した。記事の内容は下記の通りである。

号・発行月	記 事
133 号 2023 年 5 月 8 ページ	主な地震活動 2023 年 1 月～ 3 月 ◆シリーズ「関東地震から 100 年」その④ 関東大震災の火災被害の教訓を正しく継承する ◆日本海側で発生する地震と日本海地震・津波調査プロジェクト

	<p>◆世界を揺らすJリーグサポーター イベント報告 地震学会秋季大会一般公開セミナー開催報告 2022年度ジオパーク巡検報告 ～洞爺湖有珠山ユネスコ世界ジオパーク～</p>
134号 2023年8月 8ページ	<p>主な地震活動 2023年4月～6月 ◆シリーズ「関東地震から100年」その⑤ 帝都復興事業 ◆2023年2月6日にトルキエ南東部（トルコ）で発生したカフラマンマラシュ地震について ◆人工知能と自然知能の対話・協働による地震研究の新展開 イベント報告 「強震動予測－その基礎と応用」第21回講習会報告（2022年11月29日開催） イベント案内 日本地震学会 2023年度秋季大会一般公開セミナー「関東大震災から100年－過去を学び、将来に備える－」のお知らせ</p>
135号 2023年11月 8ページ	<p>主な地震活動 2023年7月～9月 ◆平成15年（2003年）十勝沖地震の際の長周期地震動 ◆長周期地震動に関する気象庁の情報発表 ◆能登半島群発地震に伴う地殻変動 イベント報告 「地震学」を活かすため、自治体や消防現場との対話が必要=学会特別シンポ 教員サマースクール開催報告 伊豆衝突帯－丹那断層や地震観測点を巡る－</p>
136号 2024年2月 8ページ	<p>主な地震活動 2023年10月～12月 ◆新潟地震 ◆大型岩石摩擦実験が解き明かす地震の複雑さ ◆若手研究者による座談会（上） イベント報告 日本地震学会 2023年度秋季大会一般公開セミナー「関東大震災から100年－過去を学び、将来に備える－」開催報告 地震学夏の学校2023 開催報告</p>

2. 4 「日本地震学会メールニュース」の発行

速報性を要するイベント情報、公募情報、学会ウェブページ更新情報等を会員に迅速に伝えるため、毎月20日前後に「日本地震学会メールニュース」No.167～No.178を発行した。

2. 5 「モノグラフ」の発行

2022年度・2023年度の特別シンポジウム等による活動成果を中心にモノグラフ第7号の編集作業を進めた。

3. 研究の奨励及び研究業績の表彰

3. 1 公益社団法人日本地震学会が設ける各賞の受賞者の表彰

日本地震学会賞

2022年度授賞対象を2023年度秋季大会会場において表彰した。

2023年度授賞対象として、理事会において下記の通り決定した。

受賞者：佐竹 健治

授賞対象業績：地球物理学・歴史地震学・地質学的手法に基づく巨大地震・津波の発生履歴の解明

日本地震学会技術開発賞

2023年度授賞対象として理事会において下記の通り決定した。

・受賞者（氏名）または団体名：JAGURS 開発チーム（構成員 馬場 俊孝, 佐竹 健治, Phil. R Cummins, Sebastian Allgeyer, 齊藤 竜彦, 対馬 弘晃, 今井 健太郎, 山下 啓, 近貞 直孝, 南雅晃, 水谷 歩, 加藤 季広）

授賞対象功績名：高性能・多機能津波計算コード JAGURS の開発

・受賞者（氏名）または団体名：金沢 敏彦, 塩原 肇, 篠原 雅尚 及び自己浮上式海底地震計開発チーム（構成員 杉岡 裕子, 一瀬 建日, 山田 知朗, 伊藤 亜妃, 中東 和夫, 望月 将志, 渡邊 智毅, 八木 健夫）

授賞対象功績名：海底における長期・多点・広帯域地震観測の実現による地震学分野への貢献

・受賞者（氏名）または団体名：功刀 卓, 青井 真, 中村 洋光, 鈴木 亘, 森川 信之, 藤原 広行

授賞対象功績名：震度のリアルタイム演算法の開発

日本地震学会論文賞

2022年度授賞対象を2023年度秋季大会会場において表彰した。

2023年度授賞対象として理事会において下記の通り決定した。

論文賞（3編）：

・2015年11月に沖縄トラフ北部で発生した地震（M7.1）の余震活動と背弧リフティング
著者：柳田 浩嗣, 仲谷 幸浩, 八木原 寛, 平野 舟一郎, 小林 励司, 山下 裕亮, 松島 健, 清水 洋, 内田 和也, 馬越 孝道, 八木 光晴, 森井 康宏, 中東 和夫, 篠原 雅尚
掲載誌：地震第2輯(2022), 75, 29-41

・Detailed S-wave velocity structure of sediment and crust off Sanriku, Japan by a new analysis method for distributed acoustic sensing data using a seafloor cable and seismic interferometry
著者：Shun Fukushima, Masanao Shinohara, Kiwamu Nishida, Akiko Takeo, Tomoaki Yamada and Kiyoshi Yomogida
掲載誌：Earth, Planets and Space(2022), 74:92

- ・ A review on slow earthquakes in the Japan Trench
著者：Tomoaki Nishikawa, Satoshi Ide and Takuya Nishimura
掲載誌：Progress in Earth and Planetary Science(2023), 10:1

日本地震学会若手学術奨励賞

2022 年度授賞対象を 2023 年度秋季大会会場において表彰した。
2023 年度授賞対象として理事会において下記の通り決定した。

- ・ 岡崎 智久
授賞対象研究：多彩な機械学習アプローチによる地震・強震動・地殻変動解析
- ・ 西川 友章
授賞対象研究：沈み込み帯における地震とスロー地震の活動に関する統計地震学的研究
- ・ 王 宇晨 (Wang Yuchen)
授賞対象研究：海域観測網を活用した津波予測手法の開発と実践

3. 2 公益社団法人日本地震学会学生優秀発表賞

日本地震学会 2023 年度秋季大会において、のべ 85 件の発表に対して、37 名からなる 2023 年度日本地震学会学生優秀発表賞選考小委員会を組織し、選考した結果、以下 9 名が受賞した。

- ・ 伊藤 陽介 東京工業大学理学院（修士課程 2 年）
「スロースリップに伴う排水による地震波異方性の時間変化」
- ・ 今井 俊輔 北海道大学大学院理学院（修士課程 2 年）
「応力条件を拘束したインバージョン法による千島海溝南部プレート間固着状況」
- ・ 河上 洋輝 広島大学大学院先進理工系科学研究科（博士課程 1 年）
「大型ハリケーンで強く励起された一次脈動の発生源」
- ・ 濱中 悟 九州大学大学院理学府（修士課程 2 年）
「国道 3 号 DAS 観測における地震波干渉法を用いた日奈久断層沿いの浅部構造推定」
- ・ 平田 京輔 東北大学大学院理学研究科（修士課程 1 年）
「2011 年東北沖地震以前の海底水圧データの再解析」
- ・ 福嶋 陸斗 京都大学理学部（学部 4 年）
「物理深層学習の断層すべり計算への適用：ばねブロックモデルにおける SSE 数値計算・摩擦特性推定・すべり予測」
- ・ 森田 寅靖 東京大学地震研究所（修士課程 1 年）

「アジョイント方程式に基づく、2次元 P-SV 波動場及び震源推定の試み」

- ・ SHENG LI 京都大学大学院工学研究科（博士課程 2 年）
「Molecular Study of Rock Friction and Wear Mechanism Using a Pair of α -quartz Asperities」
- ・ 渡邊 禎貢 岡山大学大学院自然科学研究科（博士課程 2 年）
「自然地震記録を用いた自己相関関数：浅い地盤面の検出」

3. 3 海外渡航旅費助成

公益社団法人日本地震学会の IASPEI 関連国際学術大会渡航助成金により、所定の手続きを経て、学術的な目的の海外渡航のために、下記の通り 2 名（応募者 2 名）に助成を行った。

氏名(所属)	海外渡航目的
福嶋 陸斗(京都大学)	28th IUGG General Assembly (ベルリン) 出席 2023 年 7 月 11 日～7 月 20 日
王 宇晨(海洋研究開発機構)	28th IUGG General Assembly (ベルリン) 出席 2023 年 7 月 11 日～7 月 20 日

公益財団法人地震予知総合研究振興会の助成により、所定の手続きを経て、学術的な目的の海外渡航のために、下記の通り前期 0 名（応募者 1 名）、後期 3 名（応募者 3 名）に助成を行った。

氏名(所属)	海外渡航目的
(後期 A 助成) 渡邊 禎貢(岡山大学)	Future Directions: Physics-based ground motion modeling (バンクーバー) 出席 2023 年 10 月 10 日～10 月 13 日
(後期 A 助成) 奥田 花也(海洋研究開発機構)	2023 AGU Fall Meeting (サンフランシスコ) 出席 2023 年 12 月 11 日～12 月 15 日
(後期 A 助成) 于 凡(東京大学)	2023 AGU Fall Meeting (サンフランシスコ) 出席 2023 年 12 月 11 日～12 月 15 日

3. 4 その他

第 14 回「日本学術振興会 育志賞」候補者の会員への推薦公募を行った。

令和 6 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞候補者の会員への推薦公募を行い、日本地震学会若手学術奨励賞受賞者の中から 2 名を推薦した。

令和 6 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞候補者および文部科学大臣表彰研究支援賞候補者の会員への推薦公募を行った。

第 21 回日本学術振興会賞受賞候補者の推薦について会員への推薦公募を行った。

朝日賞候補者の推薦について会員への推薦公募を行い、応募のあった 1 件について推薦の検討を行い、日本地震学会からの推薦とした。

東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成に関する募集を行った。

第 65 回藤原賞受賞候補者の会員への推薦公募を行った。

公益財団法人山田科学振興財団 2024 年度研究援助候補者の会員への推薦公募を行った。

第 40 回（2023 年度）井上學術賞候補者の会員への推薦公募を行い、応募のあった 1 件について推薦の検討を行い、日本地震学会からの推薦とした。

令和 7 年春の科学技術に関する黄綬・紫綬・藍綬褒章受賞候補者の会員への推薦公募を行った。

4. 内外の関連学術団体との協力・連絡

4. 1 国際学会等との連携

IASPEI 及び関連する IUGG（国際測地学・地球物理学連合）、ASC（アジア地震学会）と情報交換を行った。

4. 2 日本地球惑星科学連合の活動

公益社団法人日本地球惑星科学連合の団体会員として、連合加盟学協会との協働による関連分野の学術振興に向けた活動を進めた。

4. 3 関連学術団体との会長懇談会等

公益社団法人日本地震工学会会長との会長懇談会を 2023 年 10 月 2 日に建築会館でハイブリッド開催した。両学会の現状や学会活動の課題等について意見および情報交換を行い、引き続き懇談会の場を設けることとした。

4. 4 日本ジオパーク推進活動の支援

日本ジオパーク学術支援連合(JGASU)の委員を中川和之理事が務めた。

4. 5 防災学術連携体の活動

一般社団法人「防災学術連携体」の団体会員として総会・連絡会・研究会に出席し、防災減災・災害復興に関する他学協会との連携を推進した。

日本学術会議公開シンポジウム/第 15 回防災学術連携シンポジウム

自然災害を取り巻く環境の変化－防災科学の果たす多様な役割－

期日：2023 年 4 月 11 日

会場：オンライン開催

主催：日本学術会議防災減災学術連携委員会、（一社）防災学術連携体

日本学術会議学術フォーラム/第 16 回防災学術連携シンポジウム

関東大震災 100 年と防災減災科学

期日：2023 年 7 月 8 日

会場：日本学術会議講堂およびオンライン開催

主催：日本学術会議防災減災学術連携委員会、（一社）防災学術連携体

防災推進国民大会 2023/セッション日本学術会議学術シンポジウム/第 17 回防災学術連携シンポジウム 防災科学からみた関東大震災の回顧と展望

期日：2023 年 9 月 17 日

会場：オンライン開催

主催：日本学術会議防災減災学術連携委員会，（一社）防災学術連携体

日本学術会議公開シンポジウム/第 18 回防災学術連携シンポジウム 人口減少社会と防災減災

期日：2024 年 3 月 25 日

会場：オンライン開催

主催：日本学術会議防災減災学術連携委員会，（一社）防災学術連携体

防災学術連携体 緊急報告会「令和 6 年能登半島地震の概要とメカニズム」

期日：2024 年 1 月 19 日

会場：オンライン開催

主催：（一社）防災学術連携体

防災学術連携体「令和 6 年能登半島地震・1 ヶ月報告会」

期日：2024 年 1 月 31 日

会場：オンライン開催

主催：（一社）防災学術連携体

防災学術連携帯「令和 6 年能登半島地震 三ヶ月報告会」

期日：2024 年 3 月 25 日

会場：オンライン開催

主催：日本学術会議防災減災学術連携委員会，（一社）防災学術連携体

4. 6 福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会

福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会に参加し情報収集等を行った。

4. 7 理学・工学系学協会連絡協議会

理学・工学系学協会連絡協議会に参加し，関連学協会の情報収集を行った。

4. 8 地学オリンピックへの協力

地学オリンピック日本委員会からの依頼により作問者の推薦を行ったほか，協賛金の支援を行った。

4. 9 地震火山地質こどもサマースクール開催のための協力

普及行事委員会は、日本火山学会、日本地質学会とともに継続して開催している「地震火山地質こどもサマースクール」の連合企画委員会、運営委員会の幹事学会として、各学会のスタッフと共同で事業を推進した。2023年度は8月17日・18日に神奈川県平塚市及びその周辺地域を舞台に第22回地震火山こどもサマースクールを開催した。2024年度の開催地は、徳島県三好市周辺であり、準備を進めた。火山、地質との3学会連合企画委員会で、2025年度の開催地を長野県木曾町周辺、御嶽山に決定した。また、2026年度以降の開催予定地の公募を行った。

4. 10 米国地震学会 (SSA) との特別研究集会の共催

SSA と合同で特別研究集会「Physics-Based Ground Motion Modeling」を2023年10月10日(火)～13日(金)にカナダ・バンクーバー市において開催した。

4. 11 シンポジウム等の共催・協賛・後援

以下にあげる講演会・シンポジウム等の協賛、後援を行った。

協賛： Techno-Ocean 2023

期日：2023年10月5日(木)～7日(土)

会場：神戸国際展示場2号館・神戸市立ポートアイランドスポーツセンター

主催：テクノオーシャン・ネットワーク

GPS/GNSS シンポジウム 2023

期日：2023年10月25日(水)～10月27日(金)

会場：東京海洋大学 越中島会館 2階

主催：一般社団法人 測位航法学会

第64回高圧討論会

期日：2023年11月1日(水)～3日(金)

会場：さわやかちば県民プラザ

主催：日本高圧学会

海洋調査技術学会 第35回研究成果発表会

期日：2023年11月7日(火)～8日(水)

会場：東京海洋大学越中島キャンパス 85周年記念会館

主催：海洋調査技術学会

第11回中部ライフガード TEC2023～防災・減災・危機管理展～

期日：2023年12月6日(水)～7日(木)

会場：ポートメッセ名古屋

主催：名古屋国際見本市委員会、(公財)名古屋産業振興公社

地震防災フォーラム 2023

期日：2024 年 1 月 24 日（水）
会場：キャンパスプラザ京都 第 3 講義室
主催：関西地震観測研究協議会

後援： 講習会「地盤震動研究とその応用」

期日：2023 年 4 月 18 日（火）
会場：建築会館ホール
主催：日本建築学会 構造委員会 振動運営委員会

物理探査学会第 148 回（2023 年度春季）学術講演会
期日：2023 年 5 月 30 日（火）～6 月 1 日（木）
会場：早稲田大学西早稲田キャンパス（ハイブリッド開催）
主催：公益社団法人物理探査学会

平成 20 年（2008 年）岩手・宮城内陸地震から 15 年これまでとこれから
期日：2023 年 6 月 3 日（土）
会場：栗原文化会館（アポロプラザ）ホール
主催：栗原市・栗駒山麓ジオパーク推進協議会

防犯防災総合展 2023

期日：2023 年 6 月 8 日（木）～9 日（金）
会場：インテックス大阪
主催：防犯防災総合展実行委員会・一財）大阪国際経済振興センター・テレビ大阪（株）

科学教育研究協議会 第 69 回全国研究大会 埼玉大会

期日：2023 年 8 月 4 日（金）～6 日（日）
会場：埼玉県立与野高等学校
主催：科学教育研究協議会

計算力学の基礎

期日：2023 年 8 月 30 日（水）～31 日（木）， 9 月 6 日（水）～7 日（木）
会場：かながわサイエンスパーク内講義室／東京大学本郷キャンパス
主催：地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所

物理探査学会 創立 75 周年記念行事および第 149 回学術講演会

期日：2023 年 10 月 11 日（水）～13 日（金）
会場：早稲田大学国際会議場（ハイブリッド開催）
主催：公益社団法人物理探査学会

先進建設・防災・減災技術フェア in 熊本 2023

期日：2023年11月21日（火）～22日（水）

会場：グランメッセ熊本

主催：先進建設・防災・減災技術フェア in 熊本 2023 開催委員会

原子力総合シンポジウム 2023

期日：2024年1月22日（月）

会場：日本学術会議講堂

主催：日本学術会議 総合工学委員会、総合工学委員会原子力安全に関する分科会

災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第2次）令和5年度成果報告シンポジウム

期日：2024年3月13日（水）～3月14日（木）

会場：東京大学 弥生講堂（一条ホール）

主催：地震・火山噴火予知研究協議会

協力： 東京国際消防防災展 2023

期日：2023年6月15日（木）から18日（日）

会場：東京ビッグサイト

主催：東京消防庁

関東大震災100年企画展「震災からのあゆみー未来へつなげる科学技術ー」

期日：2023年9月1日（金）から11月26日（日）

会場：独立行政法人国立科学博物館

主催：独立行政法人国立科学博物館

5. その他

5. 1 日本地震学会ウェブサイトの管理・運営

学会の活動の広報および社会への学術的な知識普及のために学会ウェブサイトの掲載内容の更新を行った。

5. 2 なみふるメーリングリスト（nfml）の運用

地震研究者と一般の方々との意見交換の場として、なみふるメーリングリスト nfml を引き続き運用、メーリングリスト参加者同士の情報・意見交換を支援した。昨年度報告後、2023年4月1日以降2024年3月31日までに166件の投稿があった。また、今後の1年間を目途に、広報委員会等でnfmlの運営および広報活動について議論することとなった。

5. 3 記者懇談会

記者懇談会を、JpGU2023 および地震学会秋季大会において対面にて開催した。内容は以下の通

り。

- ・第 53 回記者懇談会 2023 年 5 月 21 日（日）17:45～18:45 幕張メッセ国際会議場 2 階 202 室
小原一成会長による地震学会の活動紹介に続いて、香川大学の金田 義行特任教授による「「トルコ カフラマンマラシュ地震に関する報告ならびに SATREPS MARTEST プロジェクトについて」と題した講演を行った。参加者数は 24 名であった。
- ・第 54 回記者懇談会 2023 年 10 月 31 日（月）18:45～19:45 パシフィコ横浜アネックスホール
小原一成会長による地震学会の活動紹介に続いて、東京大学大学院情報学環・学際情報学府の酒井慎一教授による「関東地震と首都直下地震 ～その予測と現状把握～」と題した講演を行った。参加者数は 17 名であった。

5. 4 地震学 FAQ

広報委員会やメーリングリスト nfml に寄せられた一般の方からの質問で頻度の高いものから FAQ 集を作成し、本学会ウェブサイト上で公開している。

5. 5 会長声明

令和 6 年能登半島地震について、会長声明：日本地震学会の能登半島地震への対応について（2024 年 1 月 12 日）を発売した。

II. 参考事項

1. 定時社員総会の開催

公益社団法人日本地震学会は 2023 年度定時社員総会を開催し、2022 年度の事業報告書と収支決算報告書、役員報酬、名誉会員の承認の議案を承認した。

・2023 年度定時社員総会

日時：2023 年 6 月 12 日（月）10 時 30 分～12 時 00 分

場所：Zoom ウェビナーを利用したオンライン会議で開催（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策のため）

総社員数：140 名

出席社員数：出席代議員総数 113 名（内訳：本人出席 81 名、議決権行使書出席 32 名）

2. 理事会の活動

公益社団法人日本地震学会は、2023 年度末までに以下のように計 6 回理事会を開催し法人の業務執行に必要な議決等を行った。

・2023年度第1回理事会

日時：2023年5月10日（水） 9：30～13：00

場所：Zoomを利用したオンライン会議で開催（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策のため）

理事数：15名

出席者：理事15名，監事2名

・2023年度第2回理事会

日時：2023年7月12日（水） 12：05～13：00

場所：Zoomを利用したオンライン会議で開催（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策のため）

理事数：15名

出席者：理事15名，監事2名

・2023年度第3回理事会

日時：2023年9月20日（水） 09：30～13：00

場所：Zoomを利用したオンライン会議で開催（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策のため）

理事総数：15名

出席者：理事15名，監事2名

・2023年度第4回理事会

日時：2023年11月15日（水） 09：30～13：05

場所：Zoomを利用したオンライン会議で開催（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策のため）

理事総数：15名

出席者：理事15名，監事2名

・2023年度第5回理事会

日時：2024年1月10日（水） 9：30～13：00

場所：Zoomを利用したオンライン会議で開催（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策のため）

理事総数：15名

出席者：理事13名，監事2名

・2023年度第6回理事会

日時：2024年3月13日（水） 9：30～13：00

場所：Zoomを利用したオンライン会議で開催（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策のため）

理事総数：15名

出席者：理事 14 名，監事 3 名，オブザーバー 5 名

3. 各委員会の活動

公益社団法人日本地震学会の各委員会は、会合の開催、電子メール等を通して意見の交換を行いつつ、それぞれの業務を積極的に執行した。

3. 1 地震編集委員会

第 1 回委員会（2023 年 6 月 201 日）をオンライン形式にて開催し、「地震(学術論文部)」の編集状況および編集作業、グラフィック要旨に関して意見交換を行った。第 2 回委員会（2024 年 1 月 9 日）をオンライン形式にて開催し、論文賞候補の推薦、「地震（学術論文部）」の編集状況の確認、投稿規定の改訂に関する議論、審議を行った。また、編集作業の手順について意見交換を行った。第 3 回地震編集委員会（臨時開催：2024 年 3 月 15 日）をオンライン形式にて開催し、論文賞候補の推薦、「地震（学術論文部）」の編集状況の確認、投稿規定の改訂、即時オープンアクセス化への対応について審議した。

3. 2 大会・企画委員会

4 回（2023 年 4 月 5 日，7 月 10 日，9 月 19 日，12 月 7 日）開催された委員会及びメーリングリスト等において、秋季大会の準備やプログラム編成、連合大会の地震学関連セッションのプログラム編成等を行った。

3. 3 広報委員会

学会の活動の広報と地震研究成果の社会への普及のために、地震学会広報紙「なみふる」を季刊で発行した。委員会を 4 回開催し、広報のありかたについて検討を行った。広報委員会に寄せられた質問や依頼に対する回答を行った。質問・依頼件数は 8 件であった。学会ウェブサイトを活用し、ニューズレターに掲載した各種情報や「なみふる」の電子版を掲載した。nfml メーリングリストを運営し、地震研究者と一般の方が議論を行う場を設けた。さらに、JpGU、地震学会秋季大会の際に記者懇談会を開催した。

3. 4 欧文誌運営委員会

欧文学術誌「Earth, Planets and Space」（EPS）を関連 5 学会で引き続き刊行した。また、日本地球惑星科学連合と共同し、海外の学会などにて EPS 誌の周知・普及をはかった。

3. 5 学会情報誌編集委員会

学会内広報として情報・諸行事等の周知を図るため、隔月で年 6 回「地震（ニューズレター部）」を発行した。さらにそれを補完し、速報性を要するイベント情報、公募情報、学会ウェブページ更新情報等を会員に迅速に伝えるため、日本地震学会メールニュースを毎月 1 回発行した。

3. 6 強震動委員会

講習会班（強震動予測に関する講習会を開催）、研究会班（強震動研究会を開催）、NL 連載班（「地震（ニューズレター部）」の連載企画を検討）、単行本化チームを構成し、関連の活動を行った。班相互の連絡・調整、各委員からの情報交換等のため、4 回の委員会を開催し、地震（ニューズレター部）に活動報告を行った。なお、委員会は2回をオンライン、2回を JpGU と秋季大会期間中に対面で実施した。

第 22 回強震動講習会は 2023 年 11 月 28 日にハイブリッド形式で実施した（1. 5 を参照）。強震動研究会は、2023 年 10 月 30 日に第 41 回（横浜都市発展記念館・吉田律人氏による「関東大震災と横浜一歴史学の視点から」）をビジョンセンター横浜 403 号室にて、2024 年 1 月 16 日に第 42 回（東京海上ディーアール・林 孝幸氏による「地震保険と地震学 ー相互発展に向けてー」）を東京大学地震研究所 1 号館 3 階会議室とオンラインのハイブリッド形式で開催し、それぞれ、日本地震学会から 28 名と日本地震学会内外から 56 名が聴講した。また、連載「新・強震動地震学基礎講座」の単行本化を進めた。

3. 7 学校教育委員会

地震学と学校教育との橋渡しを担うことを目的として、以下のような活動を行った。

委員会会合を計 9 回、オンラインのほか大会や行事实施時を利用して対面でもうち 2 回を開催した。今年度の事業実施体制、来年度の行事予定などを協議した。今年度は、国際防災展に際して普及行事委員会と合同で打合せをし、協力して参加した。この防災展（1. 1 2 参照）や地震の教室（1. 7 参照）といった普及活動、特に教員サマースクール（1. 6 参照）の実施状況はコロナ禍前と同等以上に復活させた。また、中学校の理科の教科書の地震学に関連する記述を検討を続けた。その他、公益社団法人日本地球惑星科学連合の教育検討委員会に委員を派遣し、継続的に活動への協力を行った。

3. 8 災害調査委員会

一般社団法人防災学術連携体の活動に参画し、7 月 15 日に開催された定時総会及び 8 月 8 日に開催された防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会に出席した。日本地球惑星科学連合の環境災害対応委員会の活動に参画し、10 月 4 日に開催された委員会会合に出席したほか、2024 年大会のユニオンセッション及びパブリックセッションの提案に協力した。また、1 月に発生した能登半島地震を受けて緊急セッション「2024 年能登半島地震」（ユニオン）及び「令和 6 年能登半島地震の発生と被害のメカニズム」（パブリック）の開催準備を行った。

3. 9 普及行事委員会

普及行事委員会は、日本火山学会、日本地質学会とともに継続して開催している「地震火山地質こどもサマースクール」の連合企画委員会、運営委員会の幹事学会として、各学会のスタッフと共同で事業を推進した。2023 年度は 8 月 17 日・18 日に神奈川県平塚市及びその周辺地域を舞台に第 22 回地震火山こどもサマースクールを開催した。2024 年度の開催地は、徳島県三好市とその周辺であり、その準備を進めた。火山、地質との 3 学会連合企画委員会で、2025 年度の開催地を長野県木曾町周辺、御嶽山に決定した。また、2026 年度以降の開催予定地の公募を行った。

また、2023 年 6 月 18 日（日）に開催された東京国際消防防災展 2023 に参加。

2023 年 9 月 30 日「地震学会&第 22 回地震火山地質こどもサマースクールジョイントフォーラ

ム in 国立科学博物館」を開催した。

3. 1 0 海外渡航旅費助成金審査委員会

「2023 年度（後期）海外渡航旅費助成金の公募について」を「地震（ニュースレター部）」第 76 巻第 NL2 号とウェブサイト、「2024 年度（前期）海外渡航旅費助成金の公募について」を「地震（ニュースレター部）」第 76 巻第 NL5 号とウェブサイトに掲載するとともに、メールニュースにおける周知も行うことで本助成金の公募を行った。2023 年度後期対象の助成については 3 名の申請に対する審査を行い、3 名に助成を行った。2024 年度前期対象の助成については申請者 1 名の申請に対する審査を行い、1 名への助成を決定した。また、2023 年度は、IASPEI 関連国際学術大会渡航助成金の公募も行い、2 名の申請者に対する審査の結果、2 名に助成を行なった。

3. 1 1 IASPEI 委員会

IASPEI および各種国際会議等に係る情報交換や活動を行っている。2023 年 10 月以降、日本学術会議の組織改革に伴って、日本学術会議 IASPEI 小委員会はなくなり、本委員会は日本地震学会下のみの委員会になった。本委員会委員長が日本学術会議 IUGG 分科会委員を務めることで、日本学術会議との連携を行っている。本委員会は、2023 年度 2 回（6 月 2 日、10 月 31 日）開催した。2023 年 7 月 11-19 日にドイツ・ベルリンで開催された第 28 回 IUGG 総会に、本委員会から IASPEI の日本代表を派遣した。また、本 IUGG 総会の報告記事を、本委員会委員および関係者で分担執筆して、地震（ニュースレター部）第 76 巻第 NL3 号「シンポジウム報告」に掲載した。

3. 1 2 ダイバーシティ推進委員会

日本地球惑星科学連合のダイバーシティ推進委員会の活動に参加し、情報等を収集して、外部機関に対する地震学会の窓口としての役割を果たした。日本地球惑星科学連合 2023 年大会の開催にあわせて、保育託児利用補助の募集を行った。2023 年秋季大会での託児室運営および利用補助を実施した。会員の提案や問題等を広く収集するために、ダイバーシティ推進委員会のメールアドレスは会員専用ウェブページで引き続き公開している。

3. 1 3 倫理委員会

会員へ地震学者の行動規範の遵守について周知を図った。

3. 1 4 表彰委員会

委員会の活動は主にメールでの意見交換及び審議を行った。その他、秋季大会での授賞式の運営及び外部の助成金や表彰制度への推薦対象者の公募・推薦を行った。

3. 1 5 地震学を社会に伝える連絡会議

「社会に対して“等身大”の地震学の現状を伝えていくこと」を目的に、普及行事委員会、学校教育委員会、広報委員会、強震動委員会、ジオパーク支援委員会、大会・企画委員会、学会情報誌編集委員会、災害調査委員会、地震編集委員会から連絡委員、および、ウェブサイト、地震予測・予知問題、特別シンポジウム企画運営、モノグラフ刊行を担当する委員をメンバーとして計 6 回の会議を開催した。各委員会等で進められている社会活動の情報交換と地震学の広報にかかる連携、関

東大震災 100 周年関連の行事の情報共有，秋季大会において社会活動を紹介するポスター展示，および，6 月に特別シンポジウム，11 月に第 16 回日本地震工学シンポジウム・オーガナイズドセッション，12 月には住民向けセミナー，さらに 2024 年能登半島地震に関する計 4 回のオンライン談話会を開催した。

3. 16 ジオパーク支援委員会

日本各地のジオパーク活動の支援を通じて，地震学の知識の普及と啓発，研究の促進に寄与するため，以下のような活動を行なった。委員会会合を 6 月および 3 月に開催し，今年度の事業実施，来年度の事業予定などについて協議した。連合大会ジオパークセッションの企画・運営に携わった。6 月 20 日にジオパーク専門員を対象とした地震学習会「ジオパーク活動で使える地震学 7」をオンラインで開催し，約 50 名の参加者があった。地震学会秋季大会の前日に，箱根ジオパークの協力を得てジオパーク巡検を開催し，22 名の会員と 2 名の非会員が参加した。

3. 17 機関連絡員

各機関での人事異動や学位論文などに関する情報収集を行った。

4. 会員の現況

本年度末現在の公益社団法人日本地震学会の会員数及び前年度比の増減は次の通りである。

会員種別	名誉会員	正会員 (内，学生会費適用会員)	賛助会員	合計
2022 年度末会員数	18 [1]	1585 [156] (173) [27]	55	1658
2023 年度末会員数	17 [1]	1624 [176] (201) [43]	54	1695
増減	-1	39	-1	37

() 内の数値は学生会費適用会員数，[] 内の数値は女性会員数

6. 役員

本年度公益社団法人日本地震学会の役員は，次の通りである。なお，全員非常勤である。

理事（会長）	小原 一成	会務の総理・倫理担当
理事（副会長）	室谷 智子	連絡会議担当（副）・国際担当・ダイバーシティ推進担当
理事（副会長）	久田 嘉章	総務，財務統括・連絡会議担当（正）・連合担当
理事（常務理事）	河合 研志	総務担当
理事	吾妻 崇	災害調査担当
理事	新井 隆太	学会情報誌編集担当

理事	安藤	亮輔	会計担当
理事	勝俣	啓	大会・企画担当
理事	加納	靖之	学校教育担当・普及行事担当
理事	篠原	雅尚	広報担当
理事	利根川	貴志	欧文誌担当
理事	中川	和之	ジオパーク担当・社会活動基金（金森基金）事業担当
理事	西村	卓也	海外渡航旅費助成金審査担当・表彰担当
理事	松島	信一	強震動担当
理事	三井	雄太	地震編集担当
監事	山岡	耕春	
監事	横井	俊明	
監事	鈴木	善和	（定款第18条第7項による監事）

(2022年6月15日就任)

2023 年度事業報告書の附属明細書

(2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)

2023年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34 条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しない。